

天然モクズガニ未抱卵個体からのふ化幼生の確保

福島県水産種苗研究所
福島県水産種苗研究所事業報告書

1 部門名

水産業一種苗研究(開発)一種苗生産、その他の魚種(内水面)
分類コード 19-06-19650000

2 担当者

山野辺貴寛・渡辺透・松本育夫

3 要旨

モクズガニは食味が良く、全国各地で休耕田を利用した粗放的養殖が行われるなど、地域活性化のための材料として利活用が図られている。しかし、本県の粗放的養殖に取り組む団体では、養殖に用いる種苗を県外から購入しており、自ら種苗生産できるよう技術の開発、指導が望まれている。そこで、当研究所では安定的に種苗生産できる技術の開発を目的とし、その一環として天然個体からのふ化幼生の確保について検討した。

- (1) 試験は平成16～18年度の3ヶ年行った。親ガニは熊川河口域で採捕したものをを用い、16・17年度は雄1個体、雌5個体を、18年度は雄2個体、雌7個体を供試した。雄1個体に対し雌1～6個体を同一水槽内に収容して海水で飼育し、交尾・抱卵を促した。
- (2) 3ヶ年の試験で供試した計17個体の雌のうち、延べ15個体が抱卵し、14個体からふ化幼生が得られた。抱卵確認からふ化までの積算水温(抱卵確認日からふ化日までの毎日の水温を積算)は288.0～514.2℃・日、平均で408.6℃であった。
- (3) ふ化幼生が得られた雌の甲幅は50.0～72.6mmで、雌の大きさと得られるふ化幼生数の間に関係はみられなかった。
- (4) 雌1個体あたりの抱卵回数、ふ化回数は6回が最多で、平均では抱卵回数が3.2回、ふ化回数が2.9回であった。
- (5) 雌1個体から得られた1回あたりふ化幼生数は最多で29.4万尾で、個体別に見ると初回が最も多い傾向にあり、延べ14個体中9個体で初回のふ化幼生数が20万尾以上であった。また雌1個体から得られた総ふ化幼生数は最多で79.8万尾で、平均では33.9万尾であった。

4 その他の資料等

- (1) 平成16年度福島県水産種苗研究所事業報告書
- (2) 平成17年度福島県水産種苗研究所事業報告書